

教育・誘引防止・飲酒運転等ワーキンググループ 整理票

資料1

項目	施策・取組(●:施策、○:取組)	現状	課題・問題点	求められる対策
教育・誘引防止・飲酒運転等WG				
1 教育の振興等				
(1) 学校教育の推進				
① 小学校から高等学校における教育	●飲酒に関する教育(学習指導要領) ●児童生徒の心と体を守るための啓発教材の作成 ●薬物乱用防止教育等推進事業	◆未成年者の飲酒は全体として減少しているが、飲酒経験率、月飲酒者率が、近年、女子の方が高くなり、逆転現象が起きている。 ◆問題飲酒者は、初飲年齢がより若い。 ◆多量飲酒・飲酒関連問題経験者と非飲酒者の2極化。健康格差拡大の恐れ。 ◆酩酊は自傷他害も引き起こす。	◆女子の方が高くなってきているという未成年者の飲酒傾向が、将来的に若年女性や未成年者におよぼす影響が懸念される。 ◆飲酒頻度や飲酒量が多い未成年者ほど、飲酒による健康被害を軽く答える傾向がある。 ◆果物味の甘いお酒が中高生男女ともとてもよく飲まれている。 ◆学校における飲酒に関する教育の充実を図るため、教職員への研修が必要。	
② 大学等における教育	●薬物乱用防止教育等推進事業 ●学生生活支援に関する情報の収集・分析・提供 ○イッキ飲み・アルハラ防止キャンペーン	◆若年者の問題飲酒者の頻度が、男女で接近している。 ◆若者は日常的に余り飲酒をしていない人でも、たまに飲むときの飲酒量が多いというビンジ飲酒、機会大量飲酒が特徴。	◆大学等で、イッキ飲ませ等による死亡事故、救急搬送が絶えない。背景に、アルコールハラスメントがあることが多い。 ◆遺族・予防団体・酒類業界・大学生協によるキャンペーンが20年以上行われているが、死者がゼロにならない。	
③ 医学・看護・福祉・司法等の専門教育		◆一般医療機関の医師が外来で接する依存症の疑いのある患者を避ける結果、治療が遅れる。 ◆弁護士や家裁等にも依存症への理解が不足している。	◆医師等のアルコール依存症への意識を改善することも必要。 ◆実際の回復者と接してもらい、回復を実感し、自助グループの役割を理解してもらうことが重要。	
④ その他		◆飲酒開始年齢と運転免許所得年齢は近い。どちらも初心者である若者の飲酒運転は、大事故に発展する。	◆自動車教習所で、アルコールの基礎知識も教えることができれば効果が上がる。	
(2) 家庭教育の推進				
家庭教育(保護者に対する学習の機会及び情報の提供等)		◆家庭で、親が子どもの飲酒を促進している傾向がある。	◆未成年者のお酒の入手先として、家にあるお酒の重要度が増している。 ◆親の飲酒は重要な促進要因である。特に母親の飲酒との関連が強い。 ◆子供に酒を勧める親が少なからずいる。	

(3) 職場教育の推進

<p>職場での研修、啓発活動、飲酒に甘い風土の改革</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業用自動車の飲酒運転の防止（アルコール検知器の義務付け、専門的教育の実施等） ● 運行管理者基礎講習 ○ 飲酒運転防止インストラクター養成講座 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 飲酒に甘い職場風土、職場のストレスが多量飲酒を促進する。 ◆ 不適切な飲酒習慣は、飲酒運転・産業事故・能率低下・失職・生活習慣病・不眠・うつ・自殺等につながりやすい。雇用者・被雇用者双方にとってリスクが大きい。 ◆ とくに運輸、業務で車の運転や機械の操作を行う職場では、事故防止に不可欠。 ◆ 依存症への誤解や偏見が発見を遅らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 飲酒運転対策と生活習慣病対策を一体化した教育プログラムが、職場では非常に有効。 ◆ 職場の飲酒風土を変える必要がある。同時に、偏見是正のため、依存症が病気との認識普及も必要。 	
-------------------------------	--	---	--	--

(4) 広報・啓発の推進

<p>① 節度ある適度な飲酒、リスクの高い飲酒についての知識の普及の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康日本21 ● アルコール関連問題啓発週間 ● 市町村の保健センターによる地域啓発 			
<p>② 依存症の偏見是正・啓発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● アルコール関連問題啓発週間 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 依存症患者の家族は、患者が病気であることや、どのように接したらいいかがわからない。 ◆ 社会に偏見があり、病気として認知されていない。人格非難や社会から排除する傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「依存症が病気であること」、「どのように対応すればいいか」、ということの周知が必要。 	
<p>③ その他(未成年者飲酒・妊婦の飲酒・飲酒運転撲滅等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康日本21 ● アルコール関連問題啓発週間 ● 未成年者飲酒防止強調月間 ○ stop!未成年者飲酒プロジェクト ○ 未成年者飲酒防止ポスター・スローガン募集キャンペーン ○ 未成年者飲酒防止・飲酒運転撲滅全国統一キャンペーン ● 飲酒運転を許さない社会環境づくり ○ イツキ飲み・アルハラ防止キャンペーン 			

2 不適切な飲酒の誘引の防止

(1) 広告

<p>テレビCM、インターネット広告、交通広告等</p>	<p>○自主基準(過度の飲酒、依存を誘発する等の表現、時間帯)</p>	<p>◆CMIについて日本には法規制はなく酒類業界の自主基準で対応している。同様に自主規制でやっているイギリスには、非常に事細かな基準がある。</p>	<p>◆CMでの飲酒シーンの描写が飲酒欲求を煽る ◆スポーツ選手の起用により、健康的なイメージとともにアルコールが伝えられている。 ◆果物味の甘いお酒が、中高生男女ともとてもよく飲まれている。 ◆アルコールの代謝に関する日本人の体質的な特徴を踏まえた、広告や注意表示などが今後必要なのではないか。</p>	
------------------------------	-------------------------------------	---	--	--

(2) 表示

<p>容器デザイン、注意表示等</p>	<p>●未成年者の飲酒防止に関する表示基準(容器への表示) ○自主基準(未成年者飲酒、妊産婦、消費と健康、飲酒運転等に関する表示)</p>	<p>◆果物表示による清涼飲料との誤認</p>	<p>◆ジュースと見間違えるような外観でアルコールが売られている。 ◆アルコールの代謝に関する日本人の体質的な特徴を踏まえた、広告や注意表示などが今後必要なのではないか。</p>	
---------------------	---	-------------------------	---	--

(3) 販売

<p>小売酒販売、スーパー、コンビニ、量販店、通販等</p>	<p>●未成年者の飲酒防止に関する表示基準(売場への表示) ●酒類販売管理者研修制度(年齢確認等) ●酒類自動販売機の撤去等</p>	<p>◆未成年者への販売 ◆完全撤廃になっていない自動販売機での販売 ◆コンビニ等での24時間販売 ◆廉売 ◆焼酎の大容量容器での小売販売 ◆酒類販売管理者研修の再受講率の伸び悩み ◆ノンアルコール飲料の未成年者への販売</p>	<p>◆ジュースと見間違えるような外観でアルコールが売られている。 ◆果物味の甘いお酒が中高生男女ともとてもよく飲まれている。 ◆酒類販売管理者研修は重要な制度であるが、3年ごとの再受講の割合は5割を切る。 ◆新たに免許を取得した業種が、なかなか組合に入らず、再受講の指導などもできない。 ◆極端に低価格なアルコールが、24時間販売。 ◆対面販売は改善しているが、高校生についてはなお問題。 ◆ノンアルコール飲料は、門戸開放薬になっている可能性がある。</p>	
--------------------------------	--	--	--	--

(4) 提供

<p>飲食店等</p>		<p>◆未成年者への提供 ◆飲み放題による多量飲酒助長 ◆酩酊者への提供</p>	<p>◆提供についてはわが国では免許制がない。 ◆料理飲食店における酒類提供に関する教育や研修が必要ではないか。</p>	
-------------	--	--	--	--